

仏教には、空そらと書いて「空くう」という大切な教えがあります。「空くう」とは、もろもろの物ものごと事や事柄は因縁によって生じたもので、固定的な実体がないということです。つまり、すべてのものは縁起えんぎにより成り立っているということです。

この「空くう」の教えをよく理解していたのが、「解空第一(げくうだいいち)」と呼ばれる、お釈迦さまの十人の優れた弟子すくの一人、須菩提尊者しゅぼだいそんじゃ、インドの昔の言葉、パーリー語でスプーティという人物です。

須菩提尊者しゅぼだいの父は、祇園精舎ぎおんしょうじゃを寄進きしんしたことで有名な須達長者しゅだつちょうじゃの弟と伝えられています。伯父おじが祇園精舎をお釈迦さまに寄進したとき、須菩提尊者しゅぼだいもその場に参列し、お釈迦さまの教えを聞きました。そのときに深く心を動かされ、ただちにお釈迦さまの弟子となったのです。

ある時、マガダ国のピンビサーラ王が、須菩提尊者しゅぼだいに小屋を寄進しました。しかし、王はうっかりしていて、その小屋の屋根を造るのを忘れてしまいました。ところが須菩提尊者しゅぼだいはその寄進された屋根のない小屋に、文句ひとつ言わず住んだのです。

そしてそれからは、天が須菩提尊者しゅぼだいの徳とくを高く評価して雨を降らせることを躊躇ちゅうちよしたため、一滴の雨も降らなくなり、多くの人々が日照りで困り果ててしまいました。それに気づいた王は、急いで小屋に屋根を造らせました。すると、すぐに雨が降り始めたという話が伝えられています。

「空くう」の教えを理解し実践していた須菩提尊者しゅぼだいは、何事に対しても「執しゅう著じゃく」をしませんでした。たとえ屋根のない小屋であっても、雨が降れば降った時に考えれば良いと、王の供養を戸惑うことなく受け入れたのでしょう。

「執著しゅうじゃく」とは、仏教の言葉で心が束縛そくばくされることです。様々な事柄に捉われて、こだわり過ぎてしまう、この「執著しゅうじゃく」が、私たちの妄想ぼんのうや煩惱、迷いや欲などの根本なのです。

須菩提尊者しゅぼだいは「執著しゅうじゃく」をしないことにより、決して人と争うこともなかったため、「無諍第一むそう」とも呼ばれました。また、多くの人々から限りない供養を受けられたので、「被供養第一ひくよう」ともいわれています。

私たちも、さまざまなことにこだわり過ぎず、柔らかい心で何事も受け入れることができるようになりたいですね。